

**社会技術研究開発事業
科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題 (ELSI) への包括的実践研究開発プログラム
プロジェクト企画調査 事後評価報告書**

「科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題 (ELSI) への包括的実践研究開発プログラム」
プログラム総括 唐沢 かおり

1. 課題代表者

由井 秀樹（理化学研究所 生命医科学研究センター 研究員）

2. 課題名

中高生になった研究参加者との共創による出生コホート研究と ELSI の検討のための企画調査

3. 実施期間

2024(令和 6) 年 10 月 1 日 ~ 2025(令和 7) 年 3 月 31 日

4. 事後評価結果

プロジェクト企画調査の目標達成状況（公開）

本企画調査は、社会的な要請が高いエコチル調査に関して、出生コホート研究に参画している当事者の意見や周辺情報を整理し、エコチル運営に寄与する提言・情報提供を行うことで、出生コホート研究のあるべき姿を検討することを目標として実施されたものである。

採択に際しては、貴研究開発における具体的な ELSI 課題や根源的問い、特に倫理的な観点を深めることができる研究体制の補強を行うこと、中高生から意見を収集する方法や年齢層の異なる子どもを対象にする場合の最適な調査の方法論について検討いただくこととともに、得られたゲノムデータやインタビュー結果をどのように方法で処理し、何を得ようとしているのか、また、誰がどのようにそのデータを活用するのかといった点についても、研究開発プロジェクト（以下、「プロジェクト」という）に向けて整理したうえで、研究方法や目的の精緻化をはかることを期待した。

企画調査の結果、研究体制の強化、調査方法の確立、ELSI 課題の明確化、エコチル調査との合意形成という 4 つの目標に沿った活動が行われ、企画調査として必要な進捗が見られた。聞き取り調査により、課題が一定明らかになった点や、海外の出生コホート研究との連携やエコチル調査関係者との協議を通じ、調査方法の改善に向けた知見を蓄積した点は、今後のプロジェクト提案に資する成果と言える。

一方、企画調査で得た知見や洞察が、どのようにプロジェクトの問題設定を拡張し、より充実した問い合わせを生むのか、ELSI 研究としての仮説や取り組むべき課題の同定、方法論的な課題への対応など、さらに議論が必要な点がある。

研究体制に関して新たな研究員雇用の目処が立ったことは成果と言える。しかし、どのような専門性を持つ人材を補強する必要があるのかなど、充実した体制構築を目指したさらなる検討が望まれる。

2025 年 3 月

(別紙) 評価者一覧

〈プログラム総括〉

唐沢 かおり 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

〈プログラムアドバイザー〉

大屋 雄裕 慶應義塾大学 法学部 教授

四ノ宮 成祥 国立感染症研究所 客員研究員

中川 裕志 理化学研究所 革新知能統合研究センター
社会における人工知能研究グループ チームリーダー

西川 信太郎 株式会社グローカリンク 取締役
／日本たばこ産業株式会社 D-LAB シニアディレクター

納富 信留 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

野口 和彦 横浜国立大学 総合学術高等研究院 リスク共生社会創造センター 客員教授

原山 優子 東北大学 名誉教授

水野 祐 シティライツ法律事務所 弁護士

山口 富子 国際基督教大学 教養学部 教授

(2025 年 3 月末時点)